



豊中市教育センター
〒560-0033 豊中市蛍池中町 3-2-1-600
TEL 06-6844-5290
FAX 06-6840-8127
平成27年(2015年)2月27日 第65号

深いことを面白く

作家の井上ひさしさんの残された言葉に「**難しいことを易しく、易しいことを深く、深いことを面白く、面白いことを真面目に、真面目なことを愉快地、そして愉快なことはあくまでも愉快地**」という言葉があります。言葉の解釈は様々でしょうが、たいへん含蓄のある言葉であると思います。

これを教育の立場からみると、まず

「**難しいことを易しく**」が一番重要ですが、これが一番大変です。中途半端な知識では伝わらないし、難しい言葉を並べても、子どもを煙に巻いてしまいます。子どもは難しいことに会ったときに易しく説明してもらえたらうれしいでしょう。そして

「**易しいことを深く**」表面的な知識でとどまらず、できるだけ本質に近づけるようにしたいものです。さらに

「**深いことを面白く**」やはり学びは面白くなくては。子どもは面白いと感じ、心ひかれたことはすぐに学びます。

「**面白いことを真面目に**」面白いだけでは今一步。真摯に取り組みましょう。最後の「**愉快地**」は、子どもたちが皆で共感しあっているような感じでしょうか。

今後、教えるためのツールは多様化するでしょう。しかし、どんな便利なツールを使っても、教える側に「このことを学ばせたい」という明確な意志と、それを支える「知識と技術」がなければ、子どもたちが愉快と感じる学びは実現できません。

教育という仕事そのものが奥が深く、試行錯誤の連続ですが、「**難しいことを易しく**」「**易しいことを深く**」「**深いことを面白く**」挑戦したいものです。





小学校へのモニター設置進行中！！

順次進めている工事も、3月中には完了予定です。子ども達の学習意欲を高めることや、楽しくわかりやすい授業の実践に役立てていただきたいと思います。

ICT研修 研修キャラバン隊 出発！！

小学校への大型モニター設置完了にあたり、授業への有効な活用推進を図るため、「ICT研修キャラバン隊」として学校への出張研修を実施いたします。ご希望お待ちしております。

「いつでも、だれでも、どこでも
使ってみよう ICT」



ICT活用研修 研修キャラバン隊



研修 1
「モニターに
〇〇を映して見よう」

研修 2
「教育用ノートパソコンの活用」
・パワーポイント、デジタル教科書を使って

研修 3
「実物投影機・デジカメを
使おう」

研修 4
「iPadを使ってみよう」
・カメラ機能やアプリケーションの活用

1. 教職員対象 時間は1時間程度
2. 内容はモニター活用ツールを紹介
3. 15分単位で3～4教室をまわる方法



科学の街とよなか推進事業「サイエンスフェスティバル」報告

教育センターでは、子どもたちに科学の不思議や楽しさを体験し、興味をもってもらおうと科学イベントの充実を図ってきました。サイエンスフェスティバルは今年で10回目を迎え、2月14日（土）に螢池ルシオーレビル（4・5・6F）で開催しました。

来場した約650人の子どもたちや市民のみなさんが、参加16団体のそれぞれに工夫されたブースやサイエンスショーを楽しみました。市内の学校からは、第三中学校の理科部、第十五中学校の科学クラブ、第十七中学校の科学部、東丘小学校科学クラブの皆さんがブースを開いてくれました。



ブースでは実際に体験したり、演示実験をみたりすることができ、参加者は化学変化で色が変わったり、泡や煙がでたりするたび歓声をあげ、なぜそうなるのか一生懸命説明を聞いていました。





研修参加者数 5000名を超える！

今年度、教育センターでは、64講座188回の研修を実施しました。アンケート結果では、「内容は充実していた（強く思う 42%、思う 53%）」となるとともに、「明日からの実践に生かしていきます」に代表されるような声が多数ありました。

研修の進め方としては、講師の講義に加え、参加の先生方の実践交流も取り入れるなど、より”授業に生かせる”研修を目指してまいりました。さらに、情報機器の整備が整いつつあるなか、ICT研修では、より有効に機器を活用していただくために「ICT公開授業」や「ICTセミナー」を実施いたしました。

4月からは、それぞれのパソコンから研修申込みができる「研修申込みシステム」を導入いたします。来年度も、より充実した内容の研修を実施して参ります。ぜひご参加ください。



「ことばフレンス豊中」言語力向上推進事業 報告

今年度、教育センターでは、子どもたちの言語力向上をねらいとして、市実施研修や校内研究の充実を図ってきました。国語研修については、筑波大学附属小学校の白石範孝先生や大阪教育大学の住田勝先生等を講師に招いた講義や、推進校における公開研究会等、年間15回実施しました。



- ・教科における言語活動の充実
- ・学校図書館を柱とする読書活動の充実

来年度以降は、推進校を増やして取組みを充実させるとともに、推進校における取組みをより積極的に情報発信し、市全体における、先生方の授業力の向上や、子どもたちの言語力の向上に資する取組みとしたいと考えています。

新着図書案内



はじめての斎藤喜博。
今、ふたたびの斎藤喜博。
宮城教育大学教育学部
相澤先生オススメの一冊。

教育センター所管の書籍は、
学校図書館のパソコンから検索できます。
是非ご活用ください。
貸出期間は2週間です。



夏季研でたくさんの
アイデアをくださった
遠藤瑛子先生の
実践事例ワークシートが
ぎゅっしりつまった本。

数々の指導上の問題を解決し、
奇跡的な変貌を遂げた東村山市
立大谷おんた小学校の軌跡をたどる。



先生方から受ける相談より



保護者への関わり～専門機関を紹介するとき～

3学期になり、次年度へ向けて、子どものことについて考える時期かと思います。今回は保護者に相談機関（教育センター、大学の相談室等）や医療機関といった専門機関を紹介するときの注意点について、簡単な事例を用いて考えたいと思います。

A君は小学2年生の男の子です。他児とトラブルになることがしばしばあり、担任は指導に苦慮していました。担任は懇談の際に保護者に「よかったら専門機関で相談してみても？」と話したところ保護者が怒って関係がこじれてしまいました。

《なぜこのようなことが起こったのでしょうか？》

学校は子どもの理解を深めるために良かれと思って専門機関を提案しても、「学校に見放された」「子どもを病気扱いされた」などと保護者に受け取られてしまうことがあります。

《専門機関を紹介する時のポイント》

- ① 専門機関の話題を出す前に保護者と子どもの様子について十分に話し合う
学校での様子だけで子どもの課題を決めつけず、家庭での様子や保護者の考えをていねいに聞き取るようにしましょう。
- ② 専門機関の必要性・利用目的について保護者と話し合う
なぜ他機関の利用を提案したのかという学校側の考え、専門機関に行くと“何がわかるのか”、“どのような支援が受けられるのか”といった基本的な情報を保護者に知っていただくことで、専門機関に対する不安や戸惑いを和らげます。
- ③ “専門機関につながった後”を意識した言葉がけ
「専門機関で得られた情報や助言を学校でも今後に活かしていきたい」といったメッセージを伝え、“継続して学校も保護者と一緒に子どもの成長を考えていく”という姿勢を示し、保護者との信頼関係を築くことが大切です。

上記の事例をもとに紹介の流れを具体的に考えてみましょう。

●保護者や先生方が感じている子どもの気になる点を共有する

担任から子どもの様子を伝えた後、保護者の話を聞いていくと“自分の思うようにならない時に、泣き続けたり、暴れたりする”等の気になっていることが話された。学校・保護者でそうした気になる点を共有し、その後、専門機関の利用の必要性について話し合う。

●学校から保護者へ専門機関の紹介をする（例）教育センター

『教育センター（教育相談）では、子ども自身が子ども担当の相談員に継続的に話をしたり遊びを通じて自分を表現する中で、困っていることを一緒に考えたり、安定した人との関係を体験したりしていきます。同時に保護者への面談を通じて、保護者担当の相談員が子育ての悩みをお聞きし、子どもの理解を深めながら、家庭や学校でのかかわりについてともに考えるところです』等。

●保護者の理解を得ることができれば、今後、先生方・保護者・センターが連携して子どもの理解を深めつつ、日々の取り組みにつなげていくことを保護者に伝える。

『1対1の場面（センター）で見られた子どもの様子と集団場面（学校）での様子、それぞれの情報を共有し、“気持ちをコントロールする工夫や方法（A君の場合）”等について子どもの成長に応じて継続的に考えていきたいと思えます』等。